



● 総会挨拶

「手稲歴史年表・追録版」の活用を！

手稲郷土史研究会 会長 永井道允

皆さま、本日は定期総会へご出席いただきありがとうございます。新型コロナウイルスは変異株も加わって猛威を振るっています。多くの団体が文書による総会の方式をとっている中、このような形で総会を開くことができました。令和2年度の活動を総括し、新年度の研究計画の策定にお知恵を拝借したいと存じます。議案書や会報「郷土史ていね」と一緒に、「手稲歴史年表・追録版」がお手元に配られています。これについての経緯を述べさせていただきたいと思います。

歴史は時の経過とともにどんどん変わっていきます。先輩たちが『史料に見る手稲今昔～手稲歴史年表』を刊行してから 10 余年が経ちました。私の思い付きで「記録に残さないと手稲の歴史が消えていく…」と話したら、共感してくれる有志の方々が出て、たいへんな努力の結果、完成したものです。史実を収集する苦勞、表にまとめる腐心は並大抵のことではありません。書式が思うような形にならず多少使いにくい面もありますが、既刊の『史料に見る手稲今昔～手稲歴史年表』の 121 ページ目以降に挟み込んでお使いください。



『手稲歴史年表』
(平成 22 年発行) と 追録版

編集委員長の村元健治さんをはじめ ご協力くださった有志の皆さんに心から敬意を表し、お礼を申し上げます。郷土史研究に、ぜひ、追録版をご活用ください。
(令和 3 年 4 月 14 日「定期総会」より)

令和 3 年度 定例会 研究発表予定表

開催日時	内容(仮題)	発表者	
5月12日(水)18:15	17世紀 イシカリ大酋長ハウカセと手稲	沖田紘昭	手稲郷土史研究会 会員
6月9日(水)18:15	手稲墓地に眠る 思い出の人びと	一ノ宮博昭	手稲郷土史研究会 会員
7月14日(水)18:15	サッポロ発祥の地を歩く	渡辺 隆	手稲郷土史研究会 会員
8月11日(水)18:15	「山口バツタ塚」再考	杉浦正人	手稲郷土史研究会 会員
9月8日(水)18:15	茶話会 A: 郷土史研究会と区民・教育現場との関わり 茶話会 B: 手稲と馬(その 2)	進行: 阿保肇男 進行: 濱埜静子	手稲郷土史研究会 会員
10月13日(水)18:15	山の手博物館ものがたり	若松幹男	手稲郷土史研究会 会員
11月10日(水)13:30	道内随一の霊場「太田神社」にコロナ退散祈願	三國 勲	手稲郷土史研究会 会員
12月8日(水)13:30	創立 50 周年 稲穂の JR 北海道札幌運輸所	敷村朝生 氏	JR 北海道札幌運輸所総務企画科 科長
1月11日(水)13:30	ウシのはなし	石原重隆	手稲郷土史研究会 会員
2月9日(水)13:30	「炭鉱排水」の果たした役割	佐々木光男	手稲郷土史研究会 会員
3月9日(水)13:30	茶話会(9月定例会)の報告	A・B 各リーダー	手稲郷土史研究会 会員

*会場は いずれも手稲区民センター 3 階 視聴覚室の予定ですが、変更の場合もあります。直近の定例会でご確認ください。

手稲郷土史研究会の令和3年度「定期総会」を開催

4月14日、手稲区民センター視聴覚室において、手稲郷土史研究会の令和3年度『定期総会』が開催されました。第1号議案「令和2年度事業報告」、第2号議案「令和2年度決算報告」、第3号議案「令和2年度会計監査報告」、第4号議案「令和3年度事業計画(案)」、第5号議案「令和3年度予算(案)」、第6号議案「役員選任」のそれぞれについて順次諮り、審議の結果、事務局原案のとおりすべて承認されましたので、ご報告いたします。新年度もよろしくご協力ください。



永井会長

令和3年度の役員と分掌はつぎのとおりです(敬称略)。会長＝永井道允、副会長＝立花邦雄(兼



定期総会 会場風景

総務部長)・乙黒通子(兼 研究副部長)、事務局長＝林 俊一、理事＝中島千恵子(会計部長)・川上義昭(総務副部長)・沖田紘昭(研究部長)・濱埜静子(研究副部長)・神川君江(研究副部長)・菅原純子(広報部長 兼 資料部長)・佐々木光男(広報副部長)。また、相談役には鈴木清士・一ノ宮博昭、監事には大沼靖男・釣本峰雄の各氏が就きました。

『定期総会』後は 役員挨拶とともに出席者全員による自己紹介が行われ、「仲よく楽しく、ふるさとの歴史を掘りおこし 次代へ伝えていこう!」と確認、和やかな雰囲気の中 散会となりました。

各事業がいよいよ始動――。9月には「視察研修旅行」が予定されているほか「手稲歴史資料展示コーナー」の充実や「手稲開基150年」に向けた啓蒙活動にも積極的に取り組んでいきます。なお、コロナ禍に鑑み、計画は変更される場合もあることを 予めご承知おきください。



区役所 手稲歴史資料展示コーナー



★人文系の情報紙で「手稲郷土史研究会」の活動を紹介 人文書専門の出版社 敬文舎(東京都新宿区)を母体とする「舎人倶楽部」では、「歴史を知る楽しさ、そして歴史が教えてくれる意義を広めていきたい」と、季刊の情報紙を発行しています。このたび編集者よりご連絡があり、当会の紹介をさせていただくことになりました。“手稲”を全国へ発信する良い機会ととらえ、対応していきます。

遺構・遺物は語る

軽川のリリー?!

市内で唯一ともいえる スズランの群生が「富丘西公園」(富丘4・5条5丁目)で見られます。このスズランは日本の在来種で、君影草の別名きみかげそうのとおり、観賞用のドイツスズランと比べると香りが淡く、葉の陰にひっそりと花を咲かせるのが特徴です。

「軽川といえばすぐ連想するものにリリーがある。又 鈴蘭とも呼ばれて昔から極めて有名である…其の匂いをたずねて私たちは可憐なリリーをあさり 東京の友人に送るのが年中行事だった…馬頭観音あしひこの丘の上一面に咲いている…」と、昭和初期の新聞紙上でも紹介されるほど 一帯は スズランの名所でした。昭和4年の火災で校舎を焼失した手稲中央小学校では、グラウンド整備の資金に“スズラン狩り”の入場料を充てたといい、校歌にも「香り豊かに白き花 すずらん咲ける…」と謳われます。※現在の富丘2条5丁目

ところが、都市化に伴い、スズランは次第に衰退していきました。公園造成のための調査で 偶然発見された“生き残り”が、その後の地道な保全活動によって 徐々に復活し、6月初旬、清楚な姿を楽しめるようになったのです。 [J]



スズラン